

目指す学校像	未来の笑顔のために ~自ら学び 心豊かで たくましく 自律した子ども~
--------	-------------------------------------

重点目標	1 【学力向上】	ICTや地域の教育力の効果的な活用、問題解決的な学習の充実
	2 【安心安全】	環境の整備、緊急事態発生時の対応の徹底、食に関する指導の充実
	3 【地域とともにある学校づくり】	積極的な情報公開
	4 【教員の資質向上・働き方改革】	今日的課題に関する研修の実施 (ICT、児童理解)、働きやすい環境づくり
	5 【心の教育】	人権意識の育成、教育相談体制の充実、積極的な生徒指導の推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和6年2月13日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	学力向上 ○ 概ね学習規律及び基礎学力が身に付いている。 ・ タブレットで、プレゼンテーションすることが得意な児童が多い。 ○ 教員は、教育活動におけるICTの効果的な活用について、実践を通して研究をしている。 ○ 「問題解決的な学習」を通して、「自律した学び」について研究を続けている。	市の学習過程「学びのポイント(じしゃく)」を基盤とする授業改善	(1) 体育科で自律した学び、問題解決的な学習を研究する(R4算、R5国、R6体育)。 ① 全員が公開授業(1月末までに) ② このことに関する講演会(8月までに) (2) タブレットの「スタディサプリ」「ドリルパーク」に加え、市販デジタルドリル「漢字」「計算」の効果的な活用法をまとめる。改善策を策定する。家庭学習ガイドラインを作成する。(改善策:1月,ガイドライン:8月) (3) 「感謝の心をはぐくむ」「自己有用感を高める」取組を、学校運営協議会と連携しながら立案、実施する。(通年)	(1) 「自律した学び」について、教員が理解を深めることができた。(肯定的回答 91%→95%) (2) 各種アプリを使った児童の主体的な学びの状況について把握している。(R6 90%) (3) 誰かに何かをされたときに「ありがとう」が言える児童(6年)が増えている。(95%)	(1) 「自律した学び」について、教員が理解を深めることができた。(研修評価 100%) (2) 各種アプリを使った児童の主体的な学びの状況について把握している。 (3) 誰かに何かをされたときに「ありがとう」が言える児童(6年)が増えている。(児童質問紙 95%)	A	○ 可能な範囲で「個別の学習」に取り組ませているが、その学習内容を具体的に把握することは難しかった。 ○ 「ありがとう」が自然と発せられるよう、学校運営協議会と連携し、学校・家庭・地域で取り組んでいく。 ○ 「自律した学び」について継続して研究をする。 ○ ICTの効果的・実践的な活用法を、継続して研究する。		令和6年度の方策について了承を得ることができた。 令和7年度について、次の3点についてご意見をいただいた。 【学力向上】 ① 「自律した学び」について引き続き研究を進めていただきたい。 宿題から家庭学習(自主学習)にシフトすることの価値について理解できた。家庭学習の計画を立てられるような支援・指導が必要である。 ② 自己有用感をはぐくむことにもつながる「ありがとう」の言える子どもの育成を、学校・家庭がタッグを組んで取り組みたい。地域もそれを理解し見守ってほしい。さらに感謝の念を定着させたい。感謝に関する行為の見える化、言語化を図る。感謝に関わる行為をカード化し掲示する。 【心の教育】 ③ 学校に行かないことが選択肢の一つとなっている現状がある。人との関わりの中で学ぶことがある。「Solaる一む」を必要としている児童に対して、引き続き支援をしていただきたい。
2	安心安全、健康 ○ 保護者や地域の方々の支援をいただきながら、登下校している。保護者との連携が必要である。 ○ 子どもたちは、自助について理解をしているが、時に意識が薄れる。 ○ 教職員は、危機管理に関する情報共有や研修会を行っている。(搬送訓練、AED)子どもにも積極的に取り組ませたい。	安全教育の充実 危機管理の徹底 健康教育の充実	(1) 高学年を対象に、心肺蘇生法訓練(含AED)を行い、共助の意欲を高める (2) 「環境整備デー」を設け、全教職員で環境整備を行う。(毎月) (3) 緊急事態発生時の対応の継続的な研究 ① 多様なシチュエーションで訓練を行う。 ② 学校行事等における緊急時対応について卓上訓練を行う。 (4) 学校給食を食生活教材とする指導を継続して行う。(安心安全,行事食) (5) 症状・心の状況を自分の言葉で言えるようにする(おはようメーター、保健指導)	(1) 「人が倒れていたら心肺蘇生法をしようとする子ども」が8割いる。 (2) 整理整頓された教室が常態化している。(運営協議会で肯定的評価 100%) (3) 学校行事や危険を伴う教科等について卓上訓練を行っている。(理科、図工、家庭、体育、体育的行事、遠足・校外学習) (4) 学校給食を95%の子どもが楽しみにしている。 (5) 自分の症状・心の状況が言える子どもが7割を超えている。	(1) 96%の子どもが、人が倒れていたら心肺蘇生法をしようとする(児童学校評価) (2) 安心安全な教育環境の整備を行っている。(協議会評価 100%) (3) 行事実施前に関係者で打ち合わせを行っている。 (4) 96%の子どもが、給食を楽しみにしている。(児童学校評価) (5) 8割の子どもが、自分の症状・心の状況が言える。(保健室状況)	B	○ 整理整頓された落ち着いた学習環境、学習上安全な学習環境を整備することは重要である。優先順位を付けながら、学校、行政、学校運営協議会、PTA等と連携を図りながら、改善、維持に努める。 ○ 行事実施前にリスクマネジメント、クライシスマネジメントの視点で、確認することは有効である。継続して取り組む。		
3	地域とともにある学校づくり ○ 地域の教育力をカリキュラムに取り入れていく必要がある。 ○ 情報発信の電子化が進んでいる。	地域の教育力の活用 情報発信の効率化	(1) 地域にある文化財、公共施設に関する読み物教材を作成するとともに、年間指導計画と関連付ける。(通年) (2) 保護者や地域の方々に支援、環境整備していただく。(通年) (3) メールによる発信を常態化する。	(1) 文化財・公共施設を訪問見学する授業、保護者や地域の方に支援いただく授業の回数を増やす。(50%増) (2) 学校運営協議会で「地域住民と連携している」に積極的評価(100%) (3) 紙の配付は緊急時を除き廃止されている。	(1) 新たに、3年社会、56年総合的な学習(周年事業特別授業)で、授業をしていただいた。 (2) 地域住民と連携している。(協議会の評価 100%) (3) 学校発出文書は原則ペーパーレス化することができた。	A	○ 地域の方々とともに学校教育を推進していくことには大きな意義がある。地域の方々にとって、学校の敷居が低くなることは求められている。		
4	教員の資質向上・働き方改革 ○ 継続的に研修をしている。引き続き今日的課題に関する研修が必要である。 ○ 学級経営に関する研修も行いたい。	教職員研修の充実 教職員の働き方改革	(1) ICTを活用した授業実践を伝達する研修会の実施(年間) (2) 学習指導の基盤となる研修会を実施する。 ① 学級経営に関する研修会(7月) ② 児童理解に関する研修会(12月) (3) 教員のキャリアアップをねらいとする研修に参加させる。(～6月) (4) 日課の工夫、会議の効率化、行事の見直しにより、事務処理の時間を確保する。(通年)	(1) 「児童の実態に合わせた指導(わかりやすい授業)をしている」(R5 86% → R6 90%) (2) 「困ったことの相談にのってくれる(自分が大切にされている)」(R5 77% → R6 80%) (3) 「研修に主体的に取り組んでいる(教育技術の向上があった)」(R5 91% → R6 95%) (4) 「働きやすい職場である」(アンケートのスコアが向上)	(1) わかりやすい授業をしている。(児童学校評価 96%) (2) 困ったことの相談にのってくれる。(児童質問紙 88%) (3) 教育技術の向上があった。(教員学校評価 95%) (4) 働きやすい職場である。(教職員評価 4.21/5点)	A	○ 引き続き授業におけるICT化を推進する必要がある。 ○ 困っている子どもたちのことを理解するために、教育相談、特別支援教育に関する研修を継続して行う必要がある。 ○ 勤務時間(8:30～17:00)の中で職務が終わらない状況がある。学校が行うもの、行わずにいいものを整理し、保護者・地域の方々に理解していただく。		
5	心の教育 ○ 「いじめられた児童を守る」「いじめた児童の心情にも寄り添う」を、学校・地域・児童で継続する。多様性を認め合う風を醸成する。 ○ 特別支援教育に関する継続した研修が必要である。 ○ 「おはよう」が言えるようになった。「ありがとう」が言える児童は少ない。	人権意識の醸成 教育相談の充実	(1) いじめ案件認知日に初期対応をしている。(通年) (2) 全教員が特別支援学級を参観する。特別支援学級の児童に声掛けをする。(通年) (3) 「おはようメーター」「心と生活のアンケート」をもとに、児童の状況を継続的に把握する。(通年) (4) 「Solaる一む」担当教員(2名)を配置する。教室での生活が困難な児童の情報収集、情報共有を行う。(該当児童全員、通年)	(1) いじめ案件認知日に初期対応をしている。 (2) すべての教員が、特別支援学級の児童とかかわりをもっている。 (3) 子どもの心の状況を継続して把握することができたか。(R6 100%) (4) 「Solaる一む」の活用ガイドラインが示されている。(8月:作成、通年:情報収集)	(1) いじめ・トラブルについて早急に対応できた。 (2) 全教員が、特別支援学級の児童とかかわりをもてた。 (3) 「おはようメーター」「アンケート」及び面談で子どもの心の状況を継続して把握した。(100%) (4) 「Solaる一む」の活用ガイドラインが作成できた。	A	○ いじめの早期発見、早期対応を継続する。子ども自身で乗り越えるべき案件との見極めが重要である。 ○ 状況に応じた、児童と学校の関わり方について、柔軟に対応していく。これまで同様、家庭への連絡を大切にしていく。		